

■第3回武蔵野市緑の基本計画検討委員会 議事要旨

●日時：平成30年3月9日(金) 19:00～21:00

●場所：武蔵野市役所 412会議室

●武蔵野市緑の基本計画検討委員会 出席者9名、欠席者1名

阿部委員長、秋田副委員長、池田委員、喜内委員、小松委員、鈴木委員、曾田委員、田中委員、平田委員

●事務局

- ・環境部 緑のまち推進課 関口課長ほか9名
- ・株式会社総合設計研究所：2名

●次第と主な議論内容

1 報告事項

(1) これまでの経緯

平成29年12月に開催した第2回緑の基本計画検討委員会の議事要旨、平成30年2月に開催した第2回庁内検討委員会の主な意見について報告した。

(2) 武蔵野市の公園・緑行政にかかる主な費用

長期的な財政を見据えた検討を行っていくため、本市の平成29年度予算や公園整備費、維持管理費などの説明を行った。

(3) 新・緑の基本計画の構成イメージ

第2回検討委員会までの意見を反映し、時点修正した構成案について報告した。

2 議事

(1) 武蔵野市の緑と水に関する課題・新たな視点の整理、検討ポイントの案について

第2回検討委員会や庁内検討委員会の意見を踏まえて、課題・新たな視点の整理及び検討ポイントを提示した。新・緑の基本計画を検討する上での課題や論点について、各委員の考えが盛り込まれているかなどを確認し、本委員会で共通の認識となるよう議論した。

(2) 緑の基本計画の基本理念・将来像・目標について

現行の緑の基本計画の基本理念・将来像・目標について、緑に関する社会動向やこれまでの委員会の意見を踏まえ、改定に向けた考え方を整理した資料を提示した。新・緑の基本計画の基本的な考え方として、目標や方針などについて意見交換を行った。

●主な意見のまとめ ⇒関連する意見

【武蔵野市の公園・緑行政にかかる主な費用について】

- ・施工単価が上昇しているにも関わらず、予算が増えていないということは、維持管理ができない箇所が増えるということか。
⇒限られた予算内では、安全面などから優先順位をつけ対応せざるを得ないのが実情である。
- ・予算が増えない中で、引き続き、都市公園を増やすことを目標とすべきなのか。
⇒一人当りの公園面積や公園空白地域を解消していくことは、大きな方向性として掲げているが、市民が使えるオープンスペースや感じる緑は、市立公園や緑地だけではないと考えている。公園に準じる機能を持つ空間に対する目標設定や効果的な使い方について議論を深めていきたい。

【緑の基本計画の構成について】

- ・現行計画が策定された2008年（平成20年）頃は、“緑をつくるための計画”だったが、現在は“緑をマネジメントする計画”に、国の方針が大きく変わってきている。マネジメント計画であることを意識して検討することが大事である。
⇒目次構成など全体像を見た際に、「マネジメント」というキーワードは、見えるよう整理した方がよい。
- ・構成案の第1章 近年の動向の部分には、緑を取り巻く社会背景の変化を書いた方が良いのではないか。

【武蔵野市の緑と水に関する課題・新たな視点の整理、検討ポイントの案について】

- ・計画を考え直す際、まずは武蔵野市の歴史を踏まえ、新しい計画では内容に濃淡をつけた方がよいのではないか。緑と関連する様々な連携を考えるうえでも、前提として何を大事にするかを想定し、それぞれの関係性を整理する必要性を感じる。
⇒これまでにいただいた意見を踏まえると、「武蔵野市らしい緑」、「ライフスタイルの中で良さを実感する緑」が大事にすべきことのキーワードになると考えている。
- ・公共緑地や学校等の公共の緑の検討ポイントは「緑と水」となっているが、民間の公開空地、農地、商業空間等の民有地の検討ポイントには、「水」が入っていない。民有地においても、「水」という視点は大事になるのではないか。
- ・基本計画に書き込むことについては、実現できるようにステップを示す必要があるのではないか。
- ・高木剪定の必要性に加えて、例えば、萌芽更新のような手法を用いた維持管理も考えていくべきではないか。
- ・子ども、青年、高齢者では、公園に求めるものは違ってくる。それぞれの視点で計画を検討する必要があるのではないか。

- ・民間の敷地や屋上スペースは、緑化だけでなく空間の活用方法と合わせて考える必要がある。事例を示すことやモデル事業が必要なのではないか。
- ⇒屋上に限らず公開空地などについては、以前は創出することで建物の延床面積を増やせたが、現在は事業者にとって、キッチンカーの出店やカフェを設けることで、収益が上がる空間として活用できるメリットがある。このような“緑の楽しみ方集”の事例を示すことや事業展開を検討してみてもどうか。

【ライフスタイルの良さを実感する緑・武蔵野市らしい緑について】

- ・「ライフスタイルの中で良さを実感する緑」のイメージとして、1本の木があるという存在だけでなく、木陰ができ、玄関先にちょっとした樹木があり、ベンチを出しておじいさんが休んでいることで、子ども達の見守りになるといったような、緑が暮らしと密接に関わっていることなどが考えられる。
- ・公園緑地以外での緑のあり方も重要であり、商業地域では樹木があるだけで気持ちは和み、壁面緑化など認識されやすい緑は歩いているときの楽しさを誘う。
- ・農地については、保全するだけでなく積極的に計画で位置づけることがポイントになる。例えば、地産地消など武蔵野市産の農産物を食べることが、「武蔵野市らしい緑」を楽しむことにつながるのではないか。

【基本理念・将来像・目標について】

- ・「ライフスタイルの中で良さを実感する緑」として、例えば、“010160 運動”とあって、“1日1回は緑を楽しんだ人が60%以上いるまちにする”などの目標や“緑感率”など新たな指標があっても良いのではないか。
- ⇒緑の基本計画に基づき、市民が行動していく中で、緑の質をどのように評価していくかが重要なのではないか。
- ⇒緑の質については、新しい指標や目標値があってもよいのではないか。
- ・緑の目標については、だんだん緩くなっている。ニューヨークでも、250mの範囲内に公園を整備することを目標としていたが、実現できないと判断し、公園ではなく民有地の緑でも良いとし、さらに民有地の緑がない場所では、コミュニティガーデンといった小さい花壇をつくる方向に変えた。現実的に限界があるため、今の市民のために指標を柔軟に変えていった方が、生活の質を高めることに貢献できるという考え方が近年ではある。
- ⇒現行計画の目標値を変える場合は、目標が時代に合っていないことや社会環境が変わってきていることを説明し、目標を変える意図を理解してもらうことが大事である。
- ・民有地の緑は、大規模な開発をしないと今後増えないだろう。個人の家などで開発をする際は、必ず木を植えるなどの決まりをつくる必要があるのではないか。
 - ・長期的な財政予測を見据えたマネジメントととして、優先度や緊急度をつけて維持管理等を行っていくことを示した方がいい。